

平成 20 年 7 月 11 日  
沖縄電力株式会社

## 「環境行動レポート 2008」の発行について

このたび、当社は 2007 年度の当社およびグループ会社における環境行動の取り組み状況をまとめた「環境行動レポート 2008」を発行しました。

当社は環境問題を経営課題の最重要課題の一つとして位置付け、「沖縄電力環境方針」のもと、「環境管理の充実」、「地域への環境配慮」、「地球温暖化対策」、「循環型システムの構築」、「社会との協調」を 5 つの柱として、さまざまな環境活動に取り組んでおります。

「環境行動レポート」は、こうした取り組みを皆さまにご理解いただくために 1996 年から毎年発行しており、今回で 13 回目の発行となります。

作成にあたっては、環境省「環境報告書ガイドライン（2007 年度版）」を参考に、当社の環境方針に掲げた 5 つの項目に沿った構成とし、CO<sub>2</sub> 排出量の少ない吉の浦火力発電所の建設、バイオマスの利用などの地球温暖化対策や産業廃棄物の 3 R（Reduce：発生抑制、Reuse：再使用、Recycle：再生利用）の推進などの 2007 年度の環境活動についてわかりやすく紹介しております。

また、本レポートの客観性、信頼性を高めるため「第三者からのご意見」を掲載するとともに、「環境報告書ガイドラインとの対照表」を掲載しています。

さらに、環境行動レポートのアンケートなどからお聴きしたお客さまのご意見・ご要望から、チーム・マイナス 6% の各取り組み紹介などの掲載方法を工夫したほか、巻末の関連データを参照できる掲載とするなど、レポート内容の更なる改善・充実を図りました。

当社はこれからも、地域の持続的発展が可能な社会の実現に向け、地域の一員として電気の安定供給と環境保全の両立に取り組み、地域社会に“信頼と安心”をお届けし続ける企業を目指して邁進してまいります。

概要については、添付資料をご覧ください。

【添付資料】「環境行動レポート 2008」の概要

なお、レポートの内容については、当社ホームページ

(<http://www.okiden.co.jp/corporate/eco/index.html>)に掲載しております。

以 上

## 「環境行動レポート2008」の概要

### ■主な掲載内容

【トップメッセージ】(P2) 代表取締役社長 石嶺 伝一郎

【2007年度ハイライト】(P6～7)

「新環境方針の制定」や「公害防止に係る環境管理意識の高揚」、「NEDO 太陽光発電システム等国際共同実証開発事業」など、2007年度のニュース8項目を掲載しています。

【経営方針と環境方針】(P8～9)

社の経営課題への取り組みを示した経営方針と環境活動への方向性を示した環境方針について掲載しています。

【環境行動の目標と実績】(P10～11)

環境方針で定めている環境指標について、目標と実績を比較評価し、掲載しています。

【新環境方針の制定】(P12～13)

環境情勢に柔軟かつ的確に対応するために、2008年3月、新たに制定した「沖電グループ環境方針」のポイントを掲載しています。

【環境負荷の全体概況】(P14～15)

発電所などで消費される燃料や資材などのインプットと、それに伴い排出されるCO<sub>2</sub>や廃棄物などのアウトプットの実績を把握し、環境負荷の全体概況を掲載しています。

【I. 環境管理の充実】(P16～23)

社長を委員長とした社内体制のもと、環境保全状況や環境マネジメントシステムの取り組み状況、環境法規制等の遵守や環境事故の発生状況、環境会計等について掲載しています。

- ・昨年レポートの第三者意見を受け、昨年策定した発電設備点検調査結果に基づく再発防止対策の対応状況を掲載 (P20～21)
- ・2007年度の協定等の逸脱および環境に関する事故の発生状況を掲載 (P22)

【II. 地域への環境配慮】(P24～29)

発電所周辺の自然や地域の環境を守り、次世代に引き継ぐため、さまざまな環境保全対策を実施するとともに、地域への環境配慮に取り組んでいます。

次期電源の吉の浦火力発電所の建設計画に係る環境アセスメントの実施概要や既設発電所の環境保全対策及び緑化などの環境配慮の施設づくり、また化学物質の管理について掲載しています。

【III. 地球温暖化対策】(P30～39)

CO<sub>2</sub>排出量の少ない吉の浦火力発電所の建設、京都メカニズムを活用した炭素基金等への出資状況、RPS制度に向けた新エネルギーの導入検討やバイオマスなどのCO<sub>2</sub>対策技術開発等について掲載しています。

また、省エネルギー活動の推進としては、社内の活動や社員の省エネ推進事例を含め、政府が推奨する「チーム・マイナス6%」の取り組み状況を掲載しています。

#### 【IV. 循環型システムの構築】(P40～43)

限りある資源を有効に活用するため、循環資源の利用や環境配慮製品の使用など循環型システムの構築に向けた取組みを実施しています。

産業廃棄物・一般廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再生利用(Recycle)の3Rを推進した“ゼロエミッション”への取組み状況を掲載しています。

#### 【V. 社会との協調】(P44～53)

より快適な地域づくりに貢献できるよう、社会活動へ積極的に参加し、幅広い情報提供や啓発活動をとおして、地元とのふれあいを大切にしています。

環境行動レポートや当社ホームページによる情報開示および環境行動パネル展等での広聴活動によるコミュニケーション、地域ボランティア活動(植樹祭、清掃活動)への参加状況、その他職場環境、企業倫理など社会的側面に関する情報を掲載しています。

#### 【第三者からのご意見】(P54)

環境行動レポートの透明性及び信頼性の向上を図るため、放送大学客員教授である渡久山 章氏(琉球大学名誉教授)からのご意見を掲載しています。

#### 【資料編】(P55～73)

「家庭でできる地球温暖化対策」、「環境家計簿」、「環境を巡る歴史と沖縄電力のあゆみ」、「用語の解説」や「主な法規制および環境保全協定」、また環境活動に関する様々な関連データの経年変化などを掲載しています。

なお、本レポートは、当社ホームページにも掲載し、迅速な情報開示等コミュニケーションの充実を図ります。

#### ■その他

掲載している内容を簡略化した「沖縄電力環境行動レポート 2008」ダイジェスト版もあわせて発行しております。

以 上